

企業・
団体向け



かがわ里海づくり ガイドブック

目指すのは、

人と自然が共生する

持続可能な豊かな海

香川県

協力 かがわ「里海」づくり協議会
かがわ里海大学協議会

目次

1	里海づくりとは.....	3
2	香川県が目指す「里海」	3
3	企業・団体にとっての「里海」づくり	5
4	企業・団体が取り組める「里海」づくり活動の例.....	6
4.1	海が舞台の「里海」づくり	6
4.2	山・川・里（まち）・海一体の「里海」づくり	9
5	企業活動のなかの「里海」づくり	11
6	かがわ里海づくりパートナー.....	13
6.1	「かがわ里海づくりパートナー登録制度」とは	13
6.2	登録の方法	13
6.3	活動報告について	13
7	「里海」づくりの活動サポート	14
7.1	かがわ里海大学.....	14
7.2	里海コンシェルジュ	14



香川の海——瀬戸内海は、市民、漁業者、企業等に、その美しい景観、レクリエーションの場、漁業のフィールドといったさまざまな恵みを与え、また、多くの水生生物等の生息の場となってきました。

しかし近年、私たちのライフスタイルが変化したためにそのバランスが崩れ、景観や生き物に悪影響を与える海ごみの増加、生物の生息場所として重要な藻場の減少、海に行く機会の減少による人と海のかかわりの希薄化など、いくつもの問題が生まれています。

そこで、香川県は「里海」づくりの考え方をもとに、皆さんと一緒に、もう一度瀬戸内海を豊かな海にしていこうとしています。

「里海」は、海の利用を厳しく制限して保護するのではなく、海の景観を楽しんだり、魚介を味わったり、海辺で遊んだりしながら、少しだけ海の環境を良くする工夫を続けることでできあがる豊かな海です。

このガイドブックでは、瀬戸内海を「里海」にしていくために、皆さんと一緒に取り組んでいただきたい「里海」づくりの取組みをご紹介します。

かがわ「里海」づくり協議会

香川県では、関係者や県民の方々に幅広く主体的に参画してもらいながら、「豊かな海」の実現を目指し、「里海」づくりを推進するため、かがわ「里海」づくり協議会を設置しています。

かがわ「里海」づくり協議会は、次のような団体で構成されていて、「里海」づくりに関する様々なことについて協議を行います。

かがわ「里海」づくり協議会構成団体等

名称	分野
香川県漁業協同組合連合会	漁業
香川県農業協同組合	農業
香川県土地改良事業団体連合会	農業(ため池)
香川県森林組合連合会	林業
公益財団法人 香川県環境保全公社	環境
四国環境パートナーシップオフィス	環境
香川県連合自治会	地域生活
香川県消費者団体連絡協議会	地域生活
一般社団法人 香川経済同友会	経済
公益社団法人 香川県観光協会	観光
香川県PTA連絡協議会	社会教育
ボーイスカウト香川連盟	社会教育
国立大学法人 香川大学	教育・研究
香川県市長会	行政
香川県町村会	行政
環境省 中国四国地方環境事務所	行政
国土交通省 四国地方整備局	行政
農林水産省 中国四国農政局	行政
林野庁 四国森林管理局 香川森林管理事務所	行政
水産庁 瀬戸内海漁業調整事務所	行政
香川県	行政

かがわ里海大学協議会

県と香川大学の共同により、かがわ里海大学協議会を設立し、全県域・県民みんなで取組む「里海」づくりを県内各地で牽引する人材を育成するため、かがわ里海大学を開校しています。

「里海ガイド養成講座」など専門的な講座や「里海体験ツアー」「海の生き物観察講座」など、子供から大人まで「里海」の理解を広げる一般向け講座を毎年開催、これまでの8年間で約4,000人が修了しており、誕生した里海ガイドたちは、その後、講師として県内各地で活躍して人材の好循環が生まれています。

その取組みは、2023年度「エコツーリズム大賞」（環境大臣賞）で「特別賞」を受賞。官学連携でガイド人材の育成をしており、環境課題に関する普及啓発の活動のプラットフォームとして市民の参加を促すユニークな取組みであること、地域における「里海」づくりの担い手を継続的に育成している点が評価されました。



1 「里海」づくりとは



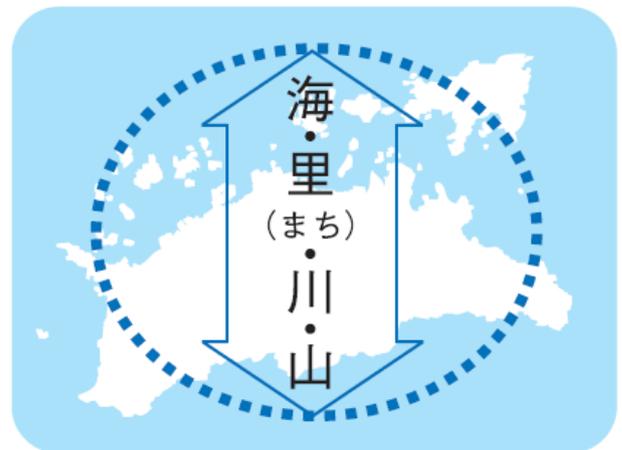
「里海」づくりとは、海に適切な人手を加えることによって、豊かな海を守り育む活動です。

ここで言う「適切な人手」とは、海の環境を守る活動だけでなく、環境を守りながら、海に親しみ、海とふれあう活動を含めて、海に関わっていく活動全般のことです。地域の人や企業、行政など、多様な主体が海に関心をもって活動に参加することが必要となります。

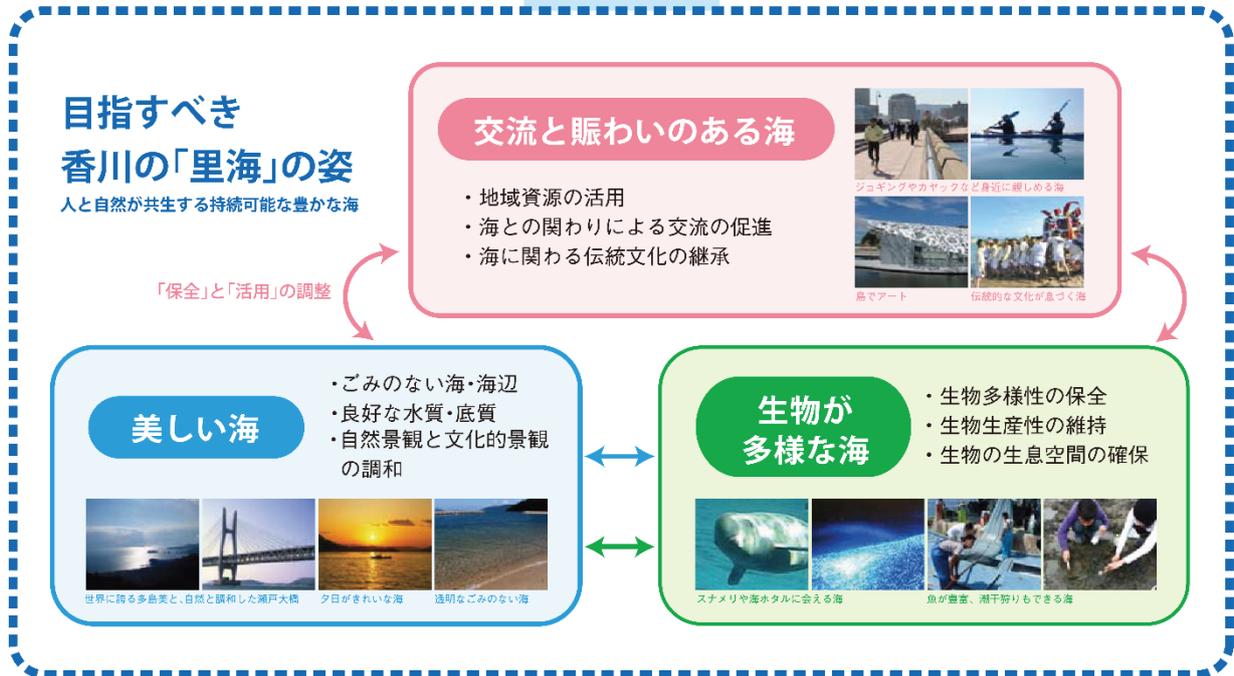
「里海」づくり活動は海の環境を改善し、生物多様性や賑わいを海にもたらします。こうして守り育まれた豊かな海こそが「里海」であり、水産資源や観光資源、景観、憩いの場といった、さまざまな恵みを私たちに与えてくれるかけがえのない財産なのです。

2 香川県が目指す「里海」

香川県では「美しい海」「生物が多様な海」「交流と賑わいのある海」の3つで構成される「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」を目指しています。また、山・川・^{まち}里・海を1つのエリアと捉え、全県域で、県民みんな「里海」づくりに取り組みます。



「里海」を活かした新しい価値創造
 ～SATOUMI を香川から世界へ～



目指すのは、人と自然が共生する持続可能な豊かな海

香川県では、山・川・里(まち)・海を1つのエリアと捉え、全県域で、県民みんなで、「美しい海」「生物が多様な海」「交流と賑わいのある海」を実現します。この3つで構成される「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」づくりを通して、自然共生型の新しい社会とライフスタイルを具現化し、香川から瀬戸内海全域へ、そして国内外へ発信します。

3 企業・団体にとっての「里海」づくり

近年、地球温暖化や海洋プラスチック問題、生物多様性、水環境の保全など、さまざまな環境に関する課題が広域化・多様化していることから、環境への配慮を求める動きは世界的に強くなっています。

企業活動においては「企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility/CSR)」が重要視され、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals/SDGs)」に取り組む企業が増えるなど、持続可能な企業活動への注目はますます高まっています。

環境問題における企業の役割が大きくなる中で、今や環境への取組みはすべての企業にとって無関係なものではありません。環境への取組みなくして、企業価値、また企業の社会的信用の向上は見込めないとと言っても過言ではないでしょう。

こうした状況の中で、企業・団体の皆さまにぜひ注目していただきたいのがかがわの「里海」づくりです。「里海」づくりは山・川・里・海という幅広いフィールドを持っており、活動内容も多岐にわたるため、いつでもどこでも取り組みやすいという利点があります。

また、「里海」づくりは様々な方が海に関わりながら取り組む活動ですので、海辺の地域や自治体だけでなく、幅広い方の参加が必要です。「里海」づくりをみんなの取組みとして広めていくためには、特に企業・団体の方のご協力が欠かせません。香川県と一緒に、全県域・県民みんなで取り組むかがわの「里海」づくりにぜひ参加してください。

企業・団体のイメージアップ

「里海」づくりに参加することで、地元香川県の海の豊かさのためローカルな環境保全活動に取り組む企業として、「身近な環境を大切にする」、「地元を大切にする」といった企業イメージの醸成にもつながります。

SDGs の取組みとしてもアピール

「里海」づくりは、SDGs の 17 のゴールのうち、「12 つくる責任つかう責任」、「14 海の豊かさを守ろう」、「15 陸の豊かさを守ろう」などと同じ課題に向き合っていく取り組みです。「里海」づくりに取り組むことで、SDGs に取り組んでいる企業・団体として、対外的にアピールすることも可能になります。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「里海」を活かした新しい価値

「里海」づくりの活動を通じて、他の企業等との交流がしやすくなり、連携した活動や、新たなビジネスチャンスも期待できます。



4 企業・団体・県民 みんなで取り組む 「里海」づくり活動 の例

企業・団体が取り組める「里海」づくり活動の例をご紹介します。

4.1 海が舞台の「里海」づくり

「里海」づくり活動のメインステージは、やはり海です。

美しい海、生物が多様な海、交流と賑わいのある海の実現に向けて、海では様々な活動を行うことができます。また、海での活動そのものが、海に親しみ、海との関わりを深めるという「里海」づくり活動にもなるのです。

ビーチクリーン活動

ボランティアなどにより、ごみが漂着している海岸の清掃に取り組む活動です。

海岸に漂着した海ごみを拾うことで、海の中のごみも減り、美しく、生き物の住みやすい海をつくれます。

海岸のプラスチックごみを破片化する前に回収することは、マイクロプラスチックの発生を抑えることにつながります。



藻場の造成

海藻の種まきや移植、食害をおこす生物の駆除などによって、アマモやガラモなどの海藻が茂る場を守り育てる活動です。

「海のゆりかご」とも呼ばれる、多様な生物の生育の場である藻場を増やすことで、魚等が増えて豊かな海になります。

藻場の造成は、関係者への手続きが必要になりますので、まずは、自治体等が開催している藻場づくり活動に参加してはいかがでしょうか。



干潟の保全活動

干潟の耕うん（泥を掘り起こすと酸素が供給され、生物や住みやすい環境が生まれます）、アオサの回収活動（大量発生したアオサが干潟を覆うと、腐敗による悪臭や生物への影響が懸念されます）などにより、干潟を健全な状態に保つ活動です。

生物の餌場や海の浄化槽として重要な役割を持っている干潟を保全することで、生物が多様な海をつくりまします。

ICC 調査への参加

ICC (International Coastal Cleanup 国際海岸クリーンアップ) 調査は、世界共通のデータカードを使って、拾った海ごみの種類を調査しながら行う国際的な海岸清掃活動です。

海ごみの調査を行うことで、海ごみはどんなものが多いのか、どこから来るのか、海ごみを減らすために何ができるのか、多くの気づきがあります。

多くの人の調査への参加により、海ごみについての理解が広がることで、海ごみのない美しい海をつくれます。



干潟や磯の生き物観察などの環境学習

干潟や磯にはどんな生き物がいるのかを探して観察する、楽しみながら生き物について学ぶ活動です。

自然のなかで生き物に触れて、関心を持つことが、生き物のすみかである海辺の環境を守る気持ちにつながります。様々な「里海」づくり活動への第一歩としていかがでしょうか。

カキ殻などによる底質改善

カキ殻を海底にすき込んだり、敷設したりすることにより、海の底に住む生き物の生息環境を改善する活動です。

様々な生物が生息する底質を改善することで、美しく生物が多様な海をつくります。

その効果や影響を確認しながら行う必要がありますので、長期的な活動になります。

海浜植物の保全活動

海浜植物が健全に生育できるように、その生態についての調査を行い、人や車に踏み倒されないような呼びかけなどを行う活動です。

海岸の植生を守ることは、海辺の生態系や生物多様性を守ることにつながり、生き物が多く生息する海をつくれます。自然のなかで生き物に触れて、関心を持つことは、生き物のすみかである海辺の環境を守る気持ちにもつながります。

地引網体験などの漁業体験学習

各地で開催されている漁業体験イベントに参加して漁師の方の仕事や魚について知ることも「里海」づくり活動です。

漁業体験により、海に親しみ、関心を持ってもらうことは、海辺の環境を守る気持ちにもつながります。海に親しむ機会を増やすことで、海に交流や賑わいが生まれます。

海辺のウォーキングイベントの開催

海辺を歩いて海に親しむイベントを開催する活動です。

海に親しみ、関心を持ってもらうことは、海辺の環境を守る気持ちにもつながります。イベントを通して海に親しむ機会や海辺の景色を楽しむ人を増やすことで、賑わいのある海をつくります。

体を動かしたい方には、スウェーデン発祥のジョギングをしながらごみ拾いをする「プロギング」イベントも人気です。





シーカヤックなどのエコツアーの実施

シーカヤックなどを使って、海の環境を体験しながら学ぶ観光ツアーを実施する活動です。

海に親しみ、関心を持ってもらうことは、海の環境を守る気持ちにもつながります。海を楽しみながら海について学ぶ人が増えることで、賑わいのある海をつくれます。

海に関する観光事業

豊かな海の自然や海に関する歴史・文化に親しみ観光ツアーなどを開催する活動です。

海に親しみ、関心を持ってもらうことは、海の環境を守る気持ちにもつながります。海に親しむ機会を増やすことで、海に交流や賑わいが生まれます。



海水浴場などふれあいの場の整備

海水浴場の清掃や海の家運営、駐車場の整備などにより、海水浴に来た方が、海にふれあい、楽しむことができる環境を整える活動です。

海水浴を楽しむ人、海を訪れる人を増やすことで、賑わいや交流のある海をつくれます。

海を楽しむレジャーなどの実施

レジャーの場として海を利用して、海にふれあい、楽しむことは、海辺の環境を守る気持ちにもつながります。

海に親しむ機会を増やすことで、海に交流や賑わいが生まれます。



様々な海についてのイベントへの参加・協賛

海を会場やテーマとするさまざまなイベントに参加・協賛する活動も「里海」づくりの一つです。

海辺のウォーキングツアーやビーチクリーンなどに参加・協賛して、イベントを盛り上げることで、海に関心のある人々の交流を生み出し、賑わいのある海をつくれます。

海文化の継承

瀬戸内海の伝統漁業や海の神様を祀る金刀比羅宮など、海に関わる文化を多くの人に伝え継承する活動です。地域の海文化を守り伝えていくことが、祭事や観光で海を訪れる人を増やすことにつながり、賑わいや交流のある海をつくれます。



4.2 山・川・里(まち)・海一体の「里海」づくり

内陸部もまた、「里海」づくり活動の場となります。山・川・里・海はつながっており、山や川、里で行った活動の影響は海にも及びます。川を通じたモノのつながりを考えてその健全化を図ること、またそれぞれのエリアでの取り組みを、海の視点からとらえて互いに連携させることが大切です。

すべてのエリアが一体となって取り組む、それがかがわの「里海」づくりです。

植林活動

森林を守るために苗木を植え、下草刈りなどの整備を行うことによって山林を育てる活動です。美しい水や栄養分を海にもたらす豊かな森を育むことによって、多くの生物が生育する美しい海をつくります。

近年課題となっている放置竹林への対策とあわせて行われることも多い活動です。

里山の再生

間伐による持続可能な樹木の利用、下草刈り、落ち葉の除去や水路の管理といった手入れにより、里山を健全な状態に保つ活動です。

美しい水や栄養分を海にもたらす豊かな里山を育むことによって、多くの生物が生育する美しい海をつくります。

森や山が舞台のエコツーリズムの実施

森や山の景色を楽しみながら歩くツアーや、その植生について学べるようなツアーを実施する活動です。

森や山についての人々の理解を深めることは、豊かな森や山を守る活動につながります。美しい水や栄養分を海にもたらす豊かな森を育むことによって、多くの生物が生育する美しい海をつくります。

川の清掃活動

河川敷や川べりにあるごみの清掃に取り組む活動です。川ごみ清掃によって川から海に流入するごみを減らし、海ごみのない美しい海をつくります。

海ごみの多くは川などを伝って陸から流れ込んだものであるため、川ごみの清掃はとても重要です。



河川の生き物観察などの環境学習

河川にはどんな生き物がいるのかを探して観察するなど、楽しみながら生き物について学ぶ活動です。

自然のなかで生き物に触れて、関心を持つことが、生き物のすみかである自然環境を守る気持ちにつながります。自然の豊かな河川から海にもたらされた美しい水や栄養分が、多くの生物が生育する美しい海をつくりま



街の清掃活動

市街地や公園などで行う清掃活動です。街の清掃活動は、やがて海に流れ込むかもしれないプラスチックごみなどを削減することにつながり、海ごみのない美しい海をつくりま

す。海ごみの多くは街などのごみ流れ込んだものであるため、「里海」のためにも街ごみの清掃はとても重要です。

マイバッグやマイボトルの使用を推奨する

プラスチック製品の使用頻度を減らすため、職場やプライベートでマイバッグやマイボトルの使用を推奨する活動です。

プラスチック製品の使用量を減らすことはプラスチックごみを減らすことにつながり、その結果、海に流入するプラスチックも減ることで美しい海をつくりま

シンポジウム、ワークショップなどの環境教育

海や環境をテーマにしたシンポジウムやワークショップなどのイベントを実施し、環境教育の機会を設ける活動です。

シンポジウムやワークショップなどの開催により、海に関心のある人々の交流を生み出し、賑わいのある海をつくりま

す。多くの人に豊かな海の大切さを伝えることにより、海に関心を持つ人が増え、「里海」づくりに携わる人を増やしま

海の幸の食イベントの開催

魚や海苔などの海の恵みを食べたり、それらが食卓に並ぶまでの過程を学んだりするイベントを開催する活動です。

イベントの開催により、海に関心のある人々の交流を生み出し、賑わいのある海をつくりま

す。また、食を通して海の大切さを学ぶ人を増やすことで、身近なところから「里海」づくりに携わる人を増やしま



海の魅力発信

SNS の投稿や口コミで海の写真や海での思い出を発信し、海の魅力を多くの人と共有する活動です。

海の魅力発信によって、海に関心のある人々の交流を生み出し、賑わいのある海をつくりま

す。また多くの人に豊かな海の魅力を伝えることにより、海に関心を持つ人が増え、「里海」づくりに携わる人を増やしま



5 企業活動のなかの「里海」づくり

「里海」づくりのフィールドは海や川、山だけではありません。企業が行う事業そのものが、「里海」づくり活動になっていることもあります。

環境に配慮した製品の使用、廃棄物を減らす取り組み、事業場の緑化、ビオトープの保全など、様々な場面で企業活動は「里海」づくりとつながっているのです。

環境に配慮した農業

プラスチックを使用した被覆肥料の使用を控える、あるいは流出させない様にネットを設置するなど、海を含めた下流域の環境に配慮して行う農業活動です。

そのままではプラスチックを使用した被覆肥料は簡単に海に流れ込んでしまうため、流出防止対策などにより海ごみが削減でき、ごみのない美しい海をつくります。

かいぼり（池干し）

ため池などの水をすべて抜いて底にたまった泥と一緒に底水をくみ出す活動です。

昔から、ため池の貯水量の確保や池底の状態を点検するため、管理目的に行われてきましたが、ため池の底の泥は栄養分を多く含んでおり、これを海へ放流することで多様な生物が息する海をつくります。

ため池の水質浄化や外来生物駆除などの目的で行われることが多く、農業用水の管理者など多くの関係者の理解を得て、調整の上で行う必要があります。

エコラベルの取得・取得製品の使用

持続可能な漁業を推進するMSC認証（水産資源と環境に配慮し適切に管理された漁業で獲られた水産物であることの認証マーク）や、持続的な森林利用を保全するFSC認証（森林の生物多様性、地域社会などの権利を守りながら適切に生産された製品であることの認証マーク）などのエコラベルを取得すること、取得製品を利用することも「里海」づくり活動になっています。

認証を得た製品を扱うことが、漁業や森林利用の持続性に配慮することになり、生物が多様な海をつくります。

廃棄物発生量の削減

長寿命製品の利用などにより、廃棄物の発生量を減らすことも「里海」づくり活動です。

企業活動におけるごみの量の削減は、やがて海に向かうごみの量の削減にもなり、美しい海をつくります。



事業所における生物多様性の保全

事業所内の緑化やビオトープの保全などにより、多くの生物が生育できる環境を守ることも「里海」づくり活動です。

山・川・里・海はつながっているため、身近な生態系を守り、生物多様性を保全することが、生物が多様な海をつくることにつながります。



分解されやすい原料を用いた製品の製造

生分解性プラスチックなど、分解されやすい原料を用いて製品を製造することも「里海」づくり活動です。

従来のプラスチックのような長く残るごみを減らすことで海洋プラスチックなどの海ごみも減らし、美しい海をつくれます。

再生原材料を用いた製品の製造

リサイクルされた原材料を使用することによって、環境負荷が低く、廃棄物の適正な回収にもつながる形態で製品の製造を行うこととなります。これも「里海」づくり活動になります。

回収されて資源化されるごみを増やすことで、海に流入するごみの量を減らし、美しい海をつくれます。

簡易包装の使用

過剰な包装を避けて簡素なものにすることで、プラスチックなどの資材の使用量とごみの発生量を減らす取り組みも「里海」づくり活動です。

使用量を減らし、プラスチックごみの発生量を削減することは、海洋プラスチックなどの海ごみのない美しい海をつくれます。

地域貢献としての環境学習

企業のボランティアや地域貢献として、海や環境について学べる環境学習を実施することも「里海」づくり活動です。

環境学習によって、海に関心のある人々の交流を生み出し、賑わいのある海をつくれます。海や環境について学習する機会を設けることにより、海に関心を持つ人が増え、「里海」づくりに携わる人を増やします。

地域貢献としての景観配慮（緑化）

企業のボランティアや地域貢献として、海につながるさまざまな場所で景観に配慮した緑化などの環境づくりを行うことも「里海」づくり活動です。

山・川・里・海はつながっているため、景観に配慮した緑化等により生物多様性を保全することが、生物が多様な海をつくることにつながります。

ここに挙げた例は、多岐にわたる「里海」づくり活動のほんの一部でしかありません。「里海」づくりは、いつでもどこでも始められる、取り組みやすい活動です。また、日常に寄り添う「環境に優しい」活動はすべて豊かな海につながる「里海」づくり活動ともなるため、自覚なく「里海」づくり活動に取り組んでいたという方も多いはずです。

ぜひ、できることから「里海」づくり活動に取り組み、またその活動を継続してみてください。

6 かがわ里海づくり パートナー

6.1 「かがわ里海づくり パートナー登録制度」

「かがわ里海づくりパートナー登録制度」とは、パートナーとなった企業・団体の皆さまにかがわの「里海」づくりに取り組んでいただき、それぞれの多様な活動を見える化することにより、さらに多くの方の参加と相互の連携を生み出し、「里海」づくりを県内全域へ面的な広がりを持った取組みとして発展させることを目的とした制度です。

パートナーの皆さまにお願いしたいことは大きく三つです。一つ目は、現在行っている「里海」づくり活動を継続していただくことです。次に、それらの「里海」づくり活動のPRをしていただくことです。最後に、かがわ里海づくりロゴマークの使用などにより、かがわの「里海」そのものの知名度向上は、企業・団体の皆さまが行っている「里海」づくり活動のPRにもつながります。

「里海」づくりに取り組んでいる企業・団体であれば、どなたでもパートナー登録が可能です。かがわ里海づくりパートナーとなって、一緒にかがわの「里海」の魅力を発信し、豊かな海づくりに取り組んでいきましょう。

1000年先の未来へ。
美しい里、豊かな海



パートナーになれば…

- ・かがわ里海づくりパートナー登録証を発行
- ・企業・団体名などを香川県HPで紹介
- ・かがわ里海づくりロゴマークの使用が可能に

6.2 登録の方法

香川県電子申請・届出サービスから、簡単に登録できます。事務局（香川県環境森林部環境管理課）へのメールで申込用紙をお送りいただくことでも登録可能です。



6.3 活動報告について

ご登録いただいた企業・団体様には、活動報告（年1回程度）をお願いいたします。ご報告いただいた活動実績につきましては、香川県庁の「里海」づくりホームページで紹介させていただきます。

登録及び活動報告について、詳しくはかがわ里海づくりパートナー登録制度実施要綱をご参照ください。

実施要綱は
こちらから
ご覧ください





7 「里海」づくりの活動サポート

7.1 かがわ里海大学

香川県と香川大学が共同で、「かがわ里海大学」を開校しています。かがわ里海大学は、「里海」づくりに求められる人材育成を目的とした「学びと交流の場」です。海と楽しく親しむスタートアップから、「里海」の理解を深めるステップアップ、さらにスキルや知識を高めるスキルアップまで、様々な体験型講座やワークショップを随時開講・開催しています。

企業・団体の方向けには、職場や学校、地域の仲間たちと一緒に、「里海」づくりを体験できる「オーダー講座」をご用意しています。

7.2 里海コンシェルジュ

「里海コンシェルジュ」は、「里海」づくりに関する相談窓口です。

企業・団体の社会貢献活動として何かできないか、地域の方々と一緒に活動できることはあるか、海とのふれあい活動のメニューには何があるのかなど、お気軽にお問い合わせください。

問合せ先 香川県環境森林部
環境管理課里海グループ
087-832-3220

kankyokanri@pref.kagawa.lg.jp

つながりひろがる「里海」づくり

ひとつひとつの「里海」づくりは密接につながっています。小さな活動であっても、やがて大きな変化をもたらします。

どんな活動を行ったか、情報を発信し、仲間と共有することで、さらに「里海」づくりの輪は広がります。私たちの瀬戸内海を豊かな海にするため、みんなで、できることから始めましょう。

